

TOPICS 知ってもらいたい介護のしごとの「今」

実際に但馬で働く介護職員・日高高校福祉科の生徒から聞いたことから考えてみました

但馬長寿の郷 地域ケア課

介護のしごとの「今」や面白さ・魅力を知ってもらうため、世間に「何を伝えればよいか」考えてみた。

世間的にはネガティブな先入観がある

一般の人が抱く、介護のしごとに対するネガティブなイメージ

- 身体的に重労働。精神的にもきつい仕事が多い
- 休みがとれなさそう
- 給与が低い
- 不規則勤務・夜勤がしんどそう
- 人間関係（対利用者・対職員）が大変そう

※但馬長寿の郷：介護のしごとに関する魅力調査結果（R5）より抜粋

介護のしごとの本質は？

介護のしごとに関する魅力調査結果（R5）では、提供した支援・ケアの結果、感謝の意を利用者本人や家族から示されたとき、仕事へのやりがいや魅力を感じると回答した職員がとても多かったです。

介護職員は利用者それぞれの人生や想いに寄り添い、自立を支援し、最期まで生きることへの希望を持ってもらうことに注力されており、「目の前で困っている人を支援する・助ける。自らの行いにより助かる人がある。その成果が利用者・家族からの感謝という形でわかる。」ということが介護の仕事のやりがいになっているのではないのでしょうか。

でも、一般の人からは見えにくい「介護現場の実情」

しかし、一般の人からすれば、介護施設・事業所の中にどんな利用者がいて、何が行われているかを知りえる機会はほとんどなく、家族の介護経験がなければ、なおさら知りえないことでもあると思います。

このことが、介護のしごとの内容、魅力・やりがいのわかりにくさにつながり、ネガティブな印象が先行する一因になっているのではないのでしょうか。

介護現場の「今」を知って、見てもらいたい

介護保険制度が始まって25年。介護事業所で提供されるケアや介助技術、施設環境や働き方も大きく変わりましたし、これからもより働きやすい環境に変わっていくことを信じています。

介護人材の確保を考えるときには、そのような介護現場の「今」を世間に知ってもらい、「私も働いてみたい」と思わせるような情報発信や職場づくりが必要となってくるのではないのでしょうか。本事例集で紹介する取り組みを見ても、介護現場で行われていること仕事の面白さを伝えると、聞き手にはしっかりメッセージが届いていることが窺えます。

福祉学習や施設・事業所紹介にて、伝える内容に悩む場合、以下の内容を参考にしてみてください。

介護のしごとの魅力・普及啓発のするときに伝えたいこと

基本的な考え方

- 介護=3大介護ではなく、日常の暮らしの支援であることを示す(ネガティブな先入観とのギャップを知ってもらう)
- 施設の雰囲気・最新技術の活用状況・給与・手当など、昔に比べ変わってきている現場を見せる
- 出前・出張講座だけではなく、現場に来て、利用者 と接すること・暮らしの様子を見れる体験へ繋げる

コンテンツ(啓発対象で重点項目は異なることが前提)

1 先行するネガティブイメージと現状とのギャップを知る(正しい情報を伝える)

- 利用者は重度な方(重度の認知症や寝たきりでコミュニケーション取れない方)に限られないことへの理解を促す
- 日常の暮らしの支援であることへの理解を促す(排泄・食事・入浴介助以外の様子を知ってもらう)
- 施設内の雰囲気、職員の一日の仕事内容を知ってもらう

2 介護のしごとの面白さを知る(職員の経験・事例から示す。ポジティブキャンペーン)

- 目の前で困っている人の支援・お互い気持ちの良い支援の結果として、利用者・家族からの感謝がある
- 利用者を支援できる幅は知識・技術を得ることや、チームアプローチで広げられる
- かわりゆく介護現場【ノーリフティングケア、ICT、多様な働き方(短時間労働・付帯業務など)、給与手当・・・】

3 介護のしごとの就き方を知る・次の体験に繋げる

- 介護のしごとへの就くための情報提供を行う

例:学生向け(進学先・奨学金の情報・トライやる・ウィークなど) 一般向け(職場体験会などの紹介)

作成:介護のイメージアップに関する検討会

介護現場の「今」を発信します

今後、但馬地域の介護現場の今を発信するため、SNSを用いた情報発信を行う予定です。2025.3時点では、モデル実施の事業所のみを掲載していますが、取材先の事業所を増やしていこうと考えています。



フォロー・いいね!をお願いします

